

♥障がい児保育は「いま」が変革期

障がい児保育を取り巻く環境は、まさにいま、大きな変革期にあるように思います。

福岡市では今年、医師や大学教授、保育協会推薦の代表などを委員とした障がい児保育検討専門委員会を立ち上げ、審議をスタートさせました。

療育を考える会は、第2回目の審議（4月12日開催）に出席し、医療的ケア児や発達障害のお子さんが、希望する保育施設に行けずに胸を痛めた現状等を報告してきました。

加配に対する制度の見直しや、待機児童問題も含めて、これから子どもたちが希望する保育を、よりよい環境で受けられる世の中になっていくよう、療育を考える会では一層尽力していこうと思っています。市内7つの療育施設に通う500人規模の会員の皆さんの声が、世の中を動かします。各園の代表者さんを通して、ぜひたくさんの声をお寄せください。

《2018年度会長のつぶやき》

ジャンケンに負けたところから始まった療考会の活動に、どっぷりハマってはや1年。

なんとも密度の濃い1年間だった。共に全力で闘ってきた各園選出の事務局メンバーは苦勞人ばかり。子どもをやっと預けられたら本来自分の時間が欲しいはずなのに、会議に参加し続けてくれた。「貴重な時間をかけて来ているからこそ、何かを少しでも得たいと思って。」そんなメンバーばかりだった。

1年間を振り返って・・・私たちに残せたものはあったのだろうか。まだ明確な成果は得られていないかもしれない。でも、課題をスタート地点にまで押し上げ、今後の療育環境の改善につながる布石を打てたのではないかと思っている。歴々の療考会役員がそうであったように、きっとこの志を、これからのメンバーが引き継いでいってくれる。

いよいよ6月26日は年間活動の集大成、25回目の記念総会だ。講師は歌手のmonさん。

自身の経験に基づく歌と語りで、噂によると聴いた人誰もが涙するとか…。

先日ご本人と打ち合わせをさせて頂いたのだが、いわゆるオーラがすごくて圧倒された！

これがプロのまとうものなのね…。しかも、当日は託児を用意するけれど、お子さん連れの方もいる事をご了承願ったところ、「お子さん連れで一緒に聴いてくださるのはもちろん嬉しいし、何より託児を用意して下さったことが嬉しい。ゆっくり聴きたいお母さん方は助かりますか」との答え。どこまでも母親目線で愛情深い方なのを強く感じた。そんな方が心を込めて歌う歌が無料で聴けるのも会員の皆さんだけの特権なので、ぜひ気軽に聴きにきて頂きたいと思う。

総会が終わると同時に、私たちの事務局仕事も完全引退！議員さんの所に通ったり、陳情や検討委員会で（あのすさまじくプレッシャーのかかる中）発言したりすることもなくなるのだ。

肩の荷が下りてホッとするような気持ちの反面、寂しさを感じずにはいられない。この会がなかったら、横のつながりを持つこともなかっただろう。そして全員が同じ方向を見て、まっすぐに話し合っただけのこと。

どんな局面も支え合って、乗り越えてこられたこと。絆と信頼関係で結ばれた大切な宝をもたらしてくれた療考会に感謝しなくてはならない。

そして今心底思うのだ。あー、あの時、ジャンケンに負けてよかった、って。

令和元年 会長 黒木（のびのび園）



♥会長をはじめ、2018年度事務局さん、代表者さんも1年間おつかれさまでした！！会員の皆様のご協力にも感謝ばかりです。♥